

第10回記念フォーラム「医療の改善活動」 全国大会 in 飯塚 — 改善活動とリーダーシップ —

～講師の紹介～

●10月31日(金) 大会第1日目

特別講演／13:30-14:20

会場：嘉穂劇場



「企業における改善活動と リーダーシップ」

【講師】

麻生 泰 氏

株式会社麻生 代表取締役社長

パネルディスカッション／16:05-17:50

会場：イヅカコスモスコモン「中ホール」(第1会場)

「病院における改善活動とリーダーシップ」

【パネリスト】



JA長野厚生連
佐久総合病院
院長 夏川 周介 氏



財)小倉地区医療協会
三萩野病院
院長 平野 忠 氏



トヨタ記念病院
院長 稲垣 春夫 氏



飯塚病院
院長 田中 二郎 氏

【司会者】

財団法人東京都医療保健協会 練馬総合病院 院長 飯田 修平 氏
特別医療法人董仙会 恵寿総合病院 理事長 神野 正博 氏

●11月 1日(土) 大会第2日目

教育講演／14:30-15:40

※同時通訳あり

会場：イヅカコスモスコモン「中ホール」(第1会場)

「バージニア・メイソン病院における改善活動」(仮題)

【講師】

Gary S. Kaplan(ゲイリー S.カプラン)氏
MD, FACP, FACMPE, Chairman and CEO
Virginia Mason Medical Center*



*Virginia Mason Medical Center・・・アメリカ・シアトル市に位置し、病院経営にトヨタ生産システム(TPS; Toyota Production System)を導入、「診療の質」の総合的改善活動であるVMPS(Virginia Mason Production System)を開発し、目標実現のために率先して改善活動を行っている病院。

本大会テーマでもある「改善活動とリーダーシップ」について様々な実例を講演いただきます。この機会に是非ご参加ください。

交通・アクセス(メイン会場・コスモスコモンまで)

- JR利用 最寄駅：飯塚駅より徒歩 10分
博多駅より(約 60分) 福北ゆたか線--飯塚駅
小倉駅より(約 70分) 鹿児島本線利用--折尾駅にて乗換--福北ゆたか線(乗換が必要な場合あり)--飯塚駅
- 西鉄バス利用 最寄バス停：飯塚BCより徒歩 10分
福岡方面より(約 60分) 博多駅または天神BC--飯塚・田川方面特急--飯塚BC
北九州方面より(約 80分) 直方・新飯塚方面特急--飯塚BC (*BC=バスセンター)
- 駐車場
地下駐車場(147台)・立体駐車場(684台)あり
最初の4時間迄300円、以降30分毎に100円追加



主催／医療のTQM推進協議会

後援／厚生労働省、日本医師会、日本看護協会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本放射線技師会、日本臨床衛生検査技師会、日本病院会、全日本病院協会、日本医療機能評価機構、医療の質・安全学会、日本規格協会、日本品質管理学会、日本科学技術連盟、福岡県、飯塚市、福岡県医師会、飯塚医師会、福岡県看護協会、福岡県薬剤師会、福岡県病院薬剤師会、福岡県理学療法士会、福岡県作業療法協会、福岡県放射線技師会、福岡県臨床衛生検査技師会(※申請中含む)

【問い合わせ先】 第10回記念フォーラム「医療の改善活動」全国大会in飯塚
担当幹事(大会長)／安藤 廣美(飯塚病院 副院長 兼 TQM・ISO室室長)
担当事務局／飯塚病院 TQM・ISO室 〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3番83号
TEL:0948-29-7039 FAX:0948-29-5744 E-mail:tqm@aih-net.com

第10回記念フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 飯塚

ゲイリー・カプラン氏来るー日本初講演！

トヨタ生産方式の医療経営で成功し、全米の注目を集めている
バージニア・メイソン医療センターの最高経営責任者(CEO)



日時 教育講演 11月1日(土) 14:30-15:40

会場 イヅカコスモスコモン「中ホール」(福岡県飯塚市芳雄町3番83号)

問合せ先 飯塚病院内 第10回記念フォーラム事務局

E-mail:tgm@aih-net.com 電話:0948-29-7039

アメリカ北西海岸のシアトルで展開するバージニア・メイソン医療センターは、いま全米で最も注目を集めている病院の代表格で、全米病院ランキングのトップに推挙され、ウォール・ストリート・ジャーナルが特集記事を組んで紹介しました。バージニア・メイソン医療センターを成功に導いたのは、トヨタ生産方式を医療経営に大胆に採用し、組織的な質安全管理を実現したゲイリー・カプラン医師の卓越した洞察力とリーダーシップです。(カプラン氏は全米患者安全財団の理事でもあります。)

カプラン氏とバージニア・メイソンの経営チームは、2002年に日本の工場を初めて視察して以来、トヨタ生産方式に代表される日本の製造業の品質管理手法が医療の質と安全と患者満足度を高めるために最適の方法であると確信し、それ以来毎年研修ツアーを組んで200名を超える病院スタッフを日本の工場視察に送りこみました。カプラン氏は、日本への海外訪問研修に要した費用は、それがもたらした結果を見れば、他のいかなる投資にも勝る効率的な投資だったと振り返っています。たとえば、患者が検査結果を知るまでに要する待ち時間は85%短縮され、在庫費用を1億円以上節約でき、患者と職員の受診と仕事の流れがより生産的になるように施設設計を変えることで残業や臨時雇用に1年で5千万円減らし、生産性を93%向上させました。診療費を下げることはしなかったが、待ち時間が減り、安全性が高まり、効率的なケアが受けられるようになったことで、患者満足度が向上しました。

アメリカの医療界では1990年代に「KAIZEN」や「CQI」(Continuous Quality Improvement)の名称で「改善」の考え方や手法が広く普及し、「PDCA」(欧米ではPDSAと呼んでいます)に即した医療の質改善の取り組みは、日本以上に広く普及していると言ってよいでしょう。毎年12月に開催されるアメリカの「全米医療改善フォーラム」には、病院で改善活動と医療安全に取り組む人々が6000人以上参加します。しかし、TQMのような組織的な質管理・質経営の手法まだ理念の段階にとどまり、成功モデルがまだ見える形になっていませんでした。トヨタ生産方式は“儲けるIE”とも呼ばれるように基本はエンジニアリングですが、カプラン氏はこれらの機会を通じて日本的品質管理の要諦を学び病院における医療システム・マネジメントに応用することを意欲的に試みており、その成功が、改善活動にとどまらないトヨタ式生産管理や日本的品質管理の、医療における有望性を示唆して注目を集めているのです。

カプラン氏は日本の製造業から何を学び、これを医療に応用して成功するためにどのようなリーダーシップを発揮したのか？ 興味は尽きません。いま最もホットな講師の教育講演です。

ぜひお聞き逃しなく。

(上原鳴夫／東北大学)